

住まいるニュース

Vol.82

日本の住宅照明

日本の住宅照明のほとんどは明るさが過剰であると言われています。

第二次世界大戦後、高度経済成長により蛍光灯が登場して以来、蛍光灯の白い光は日本人にとって“豊かさ象徴”となってきました。

しかし現在、住宅において常に全体を明るく照らして生活をしているのは世界中で日本だけのようです。

西欧の暮らしでは太陽や月の明かりといった自然光と人工照明をバランスよく使い、毎日の生活で光と闇をうまく使い分けられています。



空間の明るさの感じ方には水平面照度だけでなく、色温度との組合せが重要になります。

色温度の低いオレンジの光は、くつろぎや安らぎ、暖かさを感じ、リラックスして落ち着きをもたらします。

低照度では快適ですが、高照度では暑苦しく感じます。

色温度の高い白い光により、人は活動的になり、爽やかさを感じ、気持ちが引きしまります。

高照度では快適ですが、低照度では寒々しい雰囲気を感じます。

光源の位置からも様々な心理効果が得られます。

天井面を照らすなど光源や光面が高い位置にあると、空間の圧迫感がなくなり、開放感や高級感、落ち着きが生まれます。

床面など低い位置を照らすことにより、安らぎやくつろぎ、落ち着きを感じられます。また上部に比べて床面が光ることで非日常感を感じ、飽きない空間になります。

目に多く入る壁面を照らすと、暗い場所でも明るさを感じ、安心感を得られます。

ただ明るく照らすためのあかりではなく、光を調節することで光環境による効果を活用し、日々の暮らしを豊かにすることができるのではないのでしょうか。

午前中は窓からの自然光を浴びることで自律神経のバランスを整えて免疫力を上げ、夕方から夜にかけて間接照明や局部照明を利用した落ち着きのある空間で過ごし、リラックスした状態で眠りにつくことで快適な活動が期待できます。



建設中現場のご紹介



K様邸(福知山市)



K様邸(福知山市)



A様邸(福知山市)



K様邸(丹波篠山市)



U様邸(丹波篠山市)



U様邸(丹波篠山市)



T様邸(丹波市)



E様邸(福知山市)



Y様邸(福知山市)



S様邸(福知山市)



K様邸(丹波篠山市)



今回の担当は、

設計
津田 翠
です。

庭をつくる時、「遊ぶ庭」「育てる庭」「眺める庭」のどれをメインの目的にするかによってデザインや使い方は変わります。



広々としたスペースは
取れなくても玄関アプ
ローチなどちょっとした
スペースに庭をつくるこ
とは可能です。
ミニガーデンをつくって
毎日の小さな楽しみに
してみてください。

●遊ぶ庭

小さいお子さまやペットがいるご家庭におススメです。
テラスやウッドデッキを設置し、そこに椅子やテーブルを置いて、ご家族や友人をガーデンパーティーやバーベキューが楽しめます。
また、お子さまが小さい時は、芝生を敷き元気に遊び回れるようにし、子供が大きくなったら「眺める庭」か「育てる庭」にリフォームするのもおススメです。
人工芝なら芝生の水やりや草刈りなどのお手入れの必要がなく、手軽に楽しめます。



●育てる庭

野菜や草花を育てたいなど、ガーデニング好きな人におススメです。
ガーデニング作業は軽い運動にもなり、新鮮で安全な野菜が毎日食べられるのがメリットです。
育てる庭には、トマトやキュウリなどの野菜類、ミントやバジルなどのハーブ類が人気です。
育てる庭を計画する際には、マリーゴールドやローズマリーなど虫が嫌がる植物と一緒に植えてみるのもよいかもしれません。

●眺める庭

忙しくて手入れができないけどリビングからの眺めを楽しみたい人におススメです。
庭木を植え、夜にはライトアップをした幻想的な庭を眺めると仕事の疲れも癒されます。
シンボルツリーとして常緑樹を植えると、アクセントとなり、一年を通して華やかな庭を楽しめます。



■未来を担うゼロエネルギー住宅

ウイズ
—With—

省エネの工夫で
消費エネルギーを減らし、
使うエネルギーは自ら創り出す。
究極のエコロジー住宅です。



LINEからチャット感覚で
お問合せ・カタログ請求

